十一月八日・第三四六號 情報局編輯

寫眞週報

馬鹿鹿足村村解放運動の一環
この地方は馬鹿地帯として
知られ、誇れの出稼者は、
人口五分の村人と見られ
ねえを利益としてゐる

勝機確保の追撃戰

十月二十四日から二十六日にかけて比島東方海面で行はれた『フィリピン沖海戰』は航空兵力一基地航空部隊、機動部隊を主兵力とし、海上部隊がこれに呼應して出撃した艦隊勢力の激闘であつた。即ち、戰場の大空には我の飛行機が亂舞し、海上では彼我幾多の艦艇が縱横に白波を蹴立て、砲撃音は空から海へ、そしてまた海から空へと、戰場一帶を蔽ひ去り響き渡つた。しかも我が艦艇も水中から敵艦船を雷撃し、この海戰は文字通り『立體戰』だつたのである

『フィリピン沖海戰』での我が方の輝かしい戰果は、十月二十七日の大本營發表に明らかであるが、精强なわが航空部隊、海上部隊、潜水艦部隊、一體となつての猛攻撃により、敵は航空母艦の撃沈破十五隻をはじめとして、撃墜撃破約五百機された艦船二十七隻以上、撃墜撃破約五百機を數ふる大損害をうけたのであつた

この海戰は二十四日のわが航空部隊による攻撃に始まり、二十五日のわが海上部隊の肉薄攻撃が海戰の中核となり、二十六日には航空部隊による追撃戰が行はれた。この間わが潜水艦部隊の活躍もめざましかつた。このやうにこの海戰を時間的に、月日の上から見ぬける時は確かに二十四、二十五、二十六の三日間に亘つた海戰でしかない。しかしながら、この『フィリピン沖海戰』といふものは、決して『三日間の海戰』ではない。これは敵米國の比島上陸作戰を中心とする大合戰の一場面、香、大東亞戰爭の一齣なのである

つまり、この海戰は十月十日の敵機動部隊によるわが南西列島に對する空襲、引續き同十二日から十六日にかけて戰はれた『臺灣沖航空戰』、また同十五日にあつたマニラ東方海面での敵機動部隊の撃破、そして同十七日、敵艦隊のレイテ灣侵入等と、切つても切れない血の繋がつた戰ひなのである。從つて、この海戰で敵にとのやうな大損害を與へ、打撃を加へたことは、敵の比島方面に對する作戰に大きな齟齬を來したには相違なく、また、敵の將來の作戰にも大きな喰ひ違ひを生じたことも想像を許されるであらう。だが、絶對に安心してはならず、安心も出來ないのである

何故なら、『フィリピン沖海戰』がほんとの意味での『現代の艦隊』勢力の決戰的激闘であつたことは、太平洋戰線が非常に大事な場面に入つた、これからが天下分け目の、油斷も隙もならない戰機を醸成しつつあるからである。

敵は現在、レイテ灣方面にマッカアーサーの軍を侵入させ、ククロパン、ドラッグを中心に必死の上陸戰を强行してゐる。その比島上陸作戰、奪回作戰の目的は、暫く措いて、敵艦隊がその上陸軍を掩護し、補給し、增强するために再び、三度、非常な決心で出動して來ることは明らかであり、また、その力を持つてゐることも間違ひない。この後も第二、第三の『フィリピン沖海戰』が起るであらうことは十分に覚悟しておかねばならず、幾度、敵艦隊出動し來るとも、必ず撃滅し盡す決心を固めておかねばならない

* * *

現代の戰爭は、陸戰でもさうであるが、海戰でも消耗が極めて大きい。中でも艦隊の主兵力である航空部隊—飛行機の消耗は、臺灣沖航空戰、フィリピン沖海戰だけをみても分る通りで非常なものである。現代の戰爭は、飛行機の例だけをみても消耗が大きいのであるから、戰爭の勝敗は、結局、敵味方どちらが早く、その消耗を補給し、さらに兵力を强化するか、どうかによつて決定するものである。換言すれば銃後の生産力の如何、即ち國民の戰爭努力の强弱がそのまゝ急速に戰場に反映し、勝敗がその結果となつて現はれるのである

冒頭に『フィリピン沖海戰』は航空兵力を主兵力とする『艦隊勢力』の激闘であると述べておいた。この點で『現代の艦隊勢力』は、『昔の艦隊』—海上艦艇、戰艦を主兵力とする艦隊と全く趣を異にするに到つた。今日でも、在來依然として、『艦隊』といへば、常々海上を壓して航進する艦艇の英姿を聯想し、『艦隊』と呼べば『軍艦』と解する考へ方が根强いやうである。この考へ方は、最早や舊式のものである。『現代の艦隊』は、單に艦船部隊のみによつて成り立つものではない。それは基地航空部隊をも含む航空部隊及び機動部隊等を根幹とする艦隊勢力こそが聯合艦隊なのである

何故『現代の艦隊』は航空兵力を中心とするやうになつたのか。それは、制空權が勝利の前提となつたからである

帝國聯合艦隊は常々たる『現代の艦隊』である。そしてその實力を世界に示したのが『フィリピン沖海戰』であるが、その實力のよつて來る所以は、艦隊將兵の精强は勿論であるが、銃後の生産力の增强と補給力の發揮にある。如何に精强なる艦隊であつても、消耗する兵器彈藥の補給なくしては敵を撃滅し得ない。また、艦隊の編制が均衡のとれたものであることも戰爭に勝つためには絶對に必要である。艦隊を均衡のとれたものにするのも、しないのも、これまた銃後國民の努力に本に繋つて來る

要するに、帝國聯合艦隊が、この後とも精强無比の艦隊として、敵艦隊撃滅に邁進できるか、どうかは、偏へに銃後國民の奮起振身にあると謂ひ得よう。艦隊の戰闘は、國民の戰ひの現はれであるといふことも出來るのである

總力戰とよくいはれる。現代の戰爭は消耗が大きく、補給しながら、生産しながらの戰爭であるから、國力をあげて戰力化せねばならぬとの意味で、この總力戰は理解されてゐる。これは決して誤解ではない。だが、總力戰の意味と、ほんとの内容を完全に了解したものではない

總力戰とは、國民一體、軍、官、民の盡くが戰爭を自己の生活として無限大の努力を傾注するにある。換言すれば、全國民が戰爭傍觀者でなくなることである。戰爭即生活、生活即戰爭の態度をとることである

戰時下の生産は消耗を補給するのみではない。どこまでも敵撃滅の生産なのである。消耗するから、補給を要するからの生産は消極的でしかない。戰爭はそんな生易しいものではないのである

* * *

『フィリピン沖海戰』は一應幕を閉ぢた。しかし、戰爭はこれからである

敵米國の作戰が常に物量を基準としてゐるが、その作戰が常に物量のみに恃んでゐるのではない。周到なる用意、考慮を拂つて、正攻法に出て來てゐる點を見逃してはならない

戰局轉回の機會は來てゐる。この機會をものにするのも、しないのも、銃後の決心一つにある。現代の戰爭を正しく知り、總力戰を體得し、そして無限大の努力へ精進する心構へ、生活態度をとるところにある

敵を侮るな、一機、一艦を屠る將兵の心を心として、敵を猛追また猛追、勝利の日まで、お互に闘ひ抜かう

大本營海軍報道部

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

新祭神二万百九十七柱

靖國の社頭に秋深み、劍光燦たり ―在京陸軍部隊の參拜

學童の出迎への中を式典場へ ―大分地方式典 大分合同新聞社

式典場前に參集の遺族 ―岐阜地方式典 岐阜合同新聞社

陸海軍大臣の挨拶代讀 ―愛媛地方式典 愛媛新聞社

靖國の茨髮二万百九十七柱を新たに合祀する昭和十九年秋の靖國神社臨時大祭は例大祭とあはせて、十月二十二日招魂式、二十三日臨時大祭をいとも厳粛に挙行せられた。今回は全國遺族の上京を取止め、招魂式には東京都現住の遺族のみが參列、各地方遺族は二十二日、各地方廳所在地で行はれた地方式典に參列、招魂式執行の時刻に厳かに遥拜式を行つた

長くも 天皇 皇后兩陛下には十月二十六日、新祭神の忠誠ならびに護國の神靈に對して親しく御拜あらせられた。―― この日、聖恩奉拜の光榮に浴した新祭神の在京遺族はいふまでもなく、全國遺族ならびに一億國民はひとしく大御心の程にたゞ〳〵恐懼感激、滅敵の決意を新たに、必ず聖恩を安んじ奉らんことを御誓ひ申上げた

靖國神社秋の臨時大祭

⇦ 孫鍵を背に御下賜品を拜受する遺族 ―愛媛地方式典 新岩手日報

⇨ アイヌの老婆も皇恩の廣大に泣く ―北海道地方式典 北海道新聞社

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

追撃のもう一機を

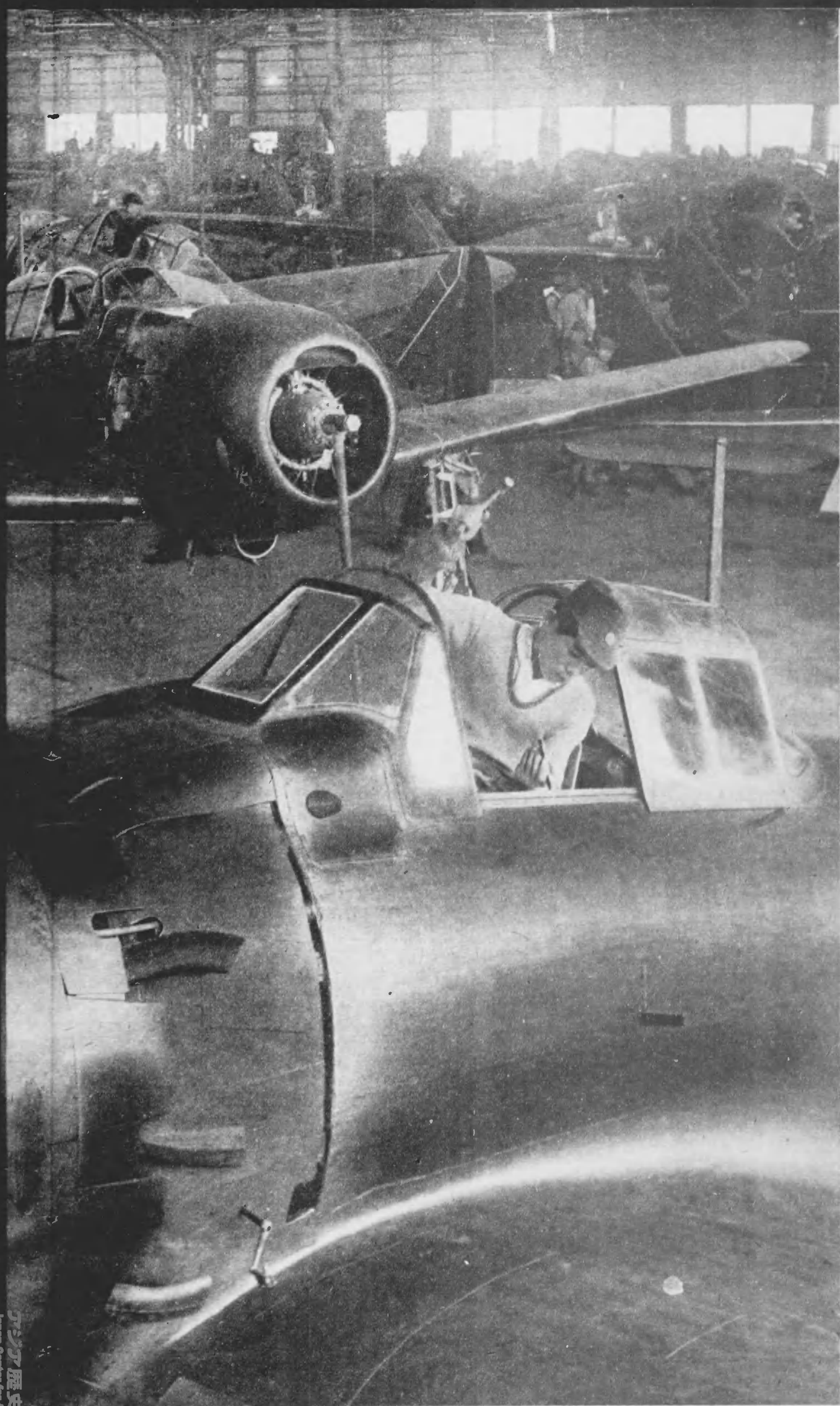
富員通報

台湾沖航空戦、比島沖海戦ならびにレイテ湾敵艦船攻撃に、わが陸海荒鷲があげた戦果は、戦史に類のない輝かしいものであり、比島奪回を焦る敵の出鼻に一大痛打を加へた。しかもこの大殊勲の陰には、全国の航空機工場が、前線の擘に酬へ、斃れても止まずの生産魂で新鋭機を續々第一線に送つた血と汗の努力がある

だが敵は未だ参つてゐない。その総力を、比島をめぐる太平洋決戦に注ぎ込んで、飽くまで押し切らうとしてゐる

戦勢轉換の神機を確實にとらへて、一大追撃戦に移るのは今だ。だが、それには敵より優勢な航空兵力を急速に第一線に補給しなければならぬ

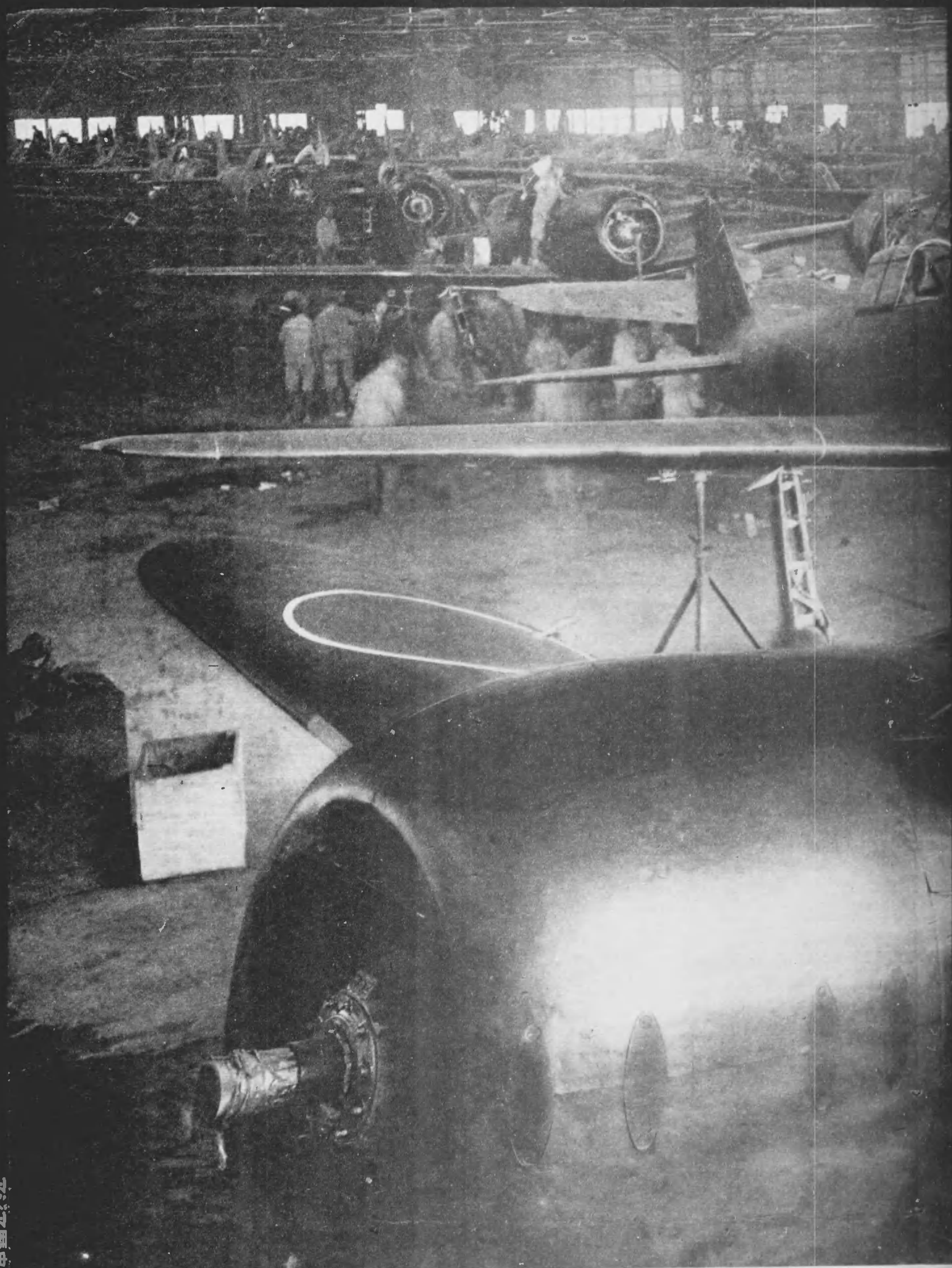
送らう。斃れてもよい、今日の一機を前線に送らう。全航空機工場、いや全国民よ、一機を決して遊撃生産に突入する時、勝利の大道は自ら開ける——　この度の大戦果と共に、特に陸海軍大臣等から感謝と激賞の電文を寄せられた中島飛行機製作所〇〇工場では、戦果に驕らず、既に遊撃増産をめざして全工場火の玉となつて蹶起した。睡眠まで返上し、遊撃の一機を造らうと、連日連夜頑張り續ける工員、學徒、挺身隊の姿は涙ぐましい。しかも、『百発一中の砲百門に優る』と喝破された聖將東郷元帥の遺訓に活き、質量とも今日の決戦に勝ち抜くに足る航空機の増産に挺身し、あくまで任務の達成に邁進してゐる



◁工場せましと翼をつらねた新鋭海軍戦闘機

ぞくぞく決戦の大空へ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

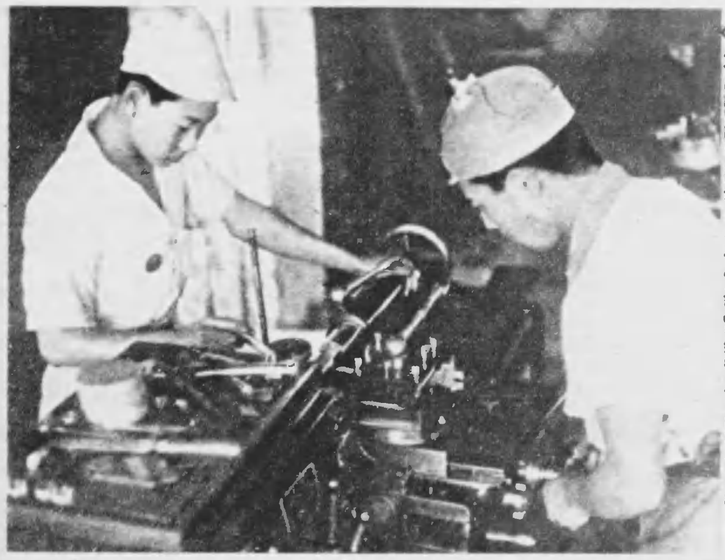


アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

マライ義勇軍技術兵

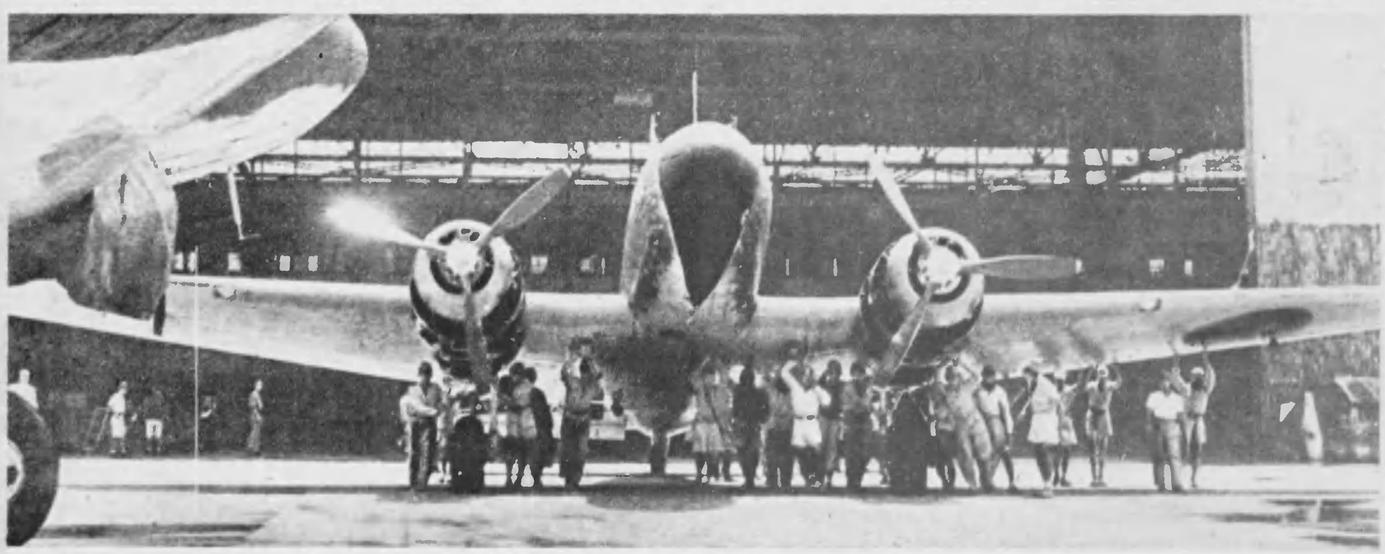
『アジアは一つなり』と、昨年十一月五、六日の大東亞會議で世界に宣言してから一年、全くその實現めざして、全東亞は固く結び合ひ、團ひ續いて來ました。中でも心强いのは現地の青少年が日本を盟主と仰ぎ、あくまでも未英を撃たん決意に燃えてゐることです。

側へばとゝに紹介するマライ義勇軍技術兵のインドネシア青少年も、現地工員養成所や昭南工業學校を卒業つて前途を嘱望されてゐたのですが、この決戰に、一刻も早くお役に立たなければ申譯ないとぞつて志願、わが航空隊に配屬されました。東亞の宿敵はわれらが撃滅するぞと、き性ひたつた顔もしさ、これが何よりも東亞一心を示してゐるではありませんか



⇦今では設計圖を見ながら、ちやんと部品を造れるやうになりましたよ

⇦やさしく親切に指導して貰ふと、僕には兄さんのやうに思へてなりません



撮影　木下秀吉氏

⇦日本の兵隊さんと仲よく働くする時は、よくぞ東亞の子に生れたるとしみじみ思ひます

⇦行みだらになつても、整備完了し次飛行機を飛行場へ引出すときは、誰れもけしとびます

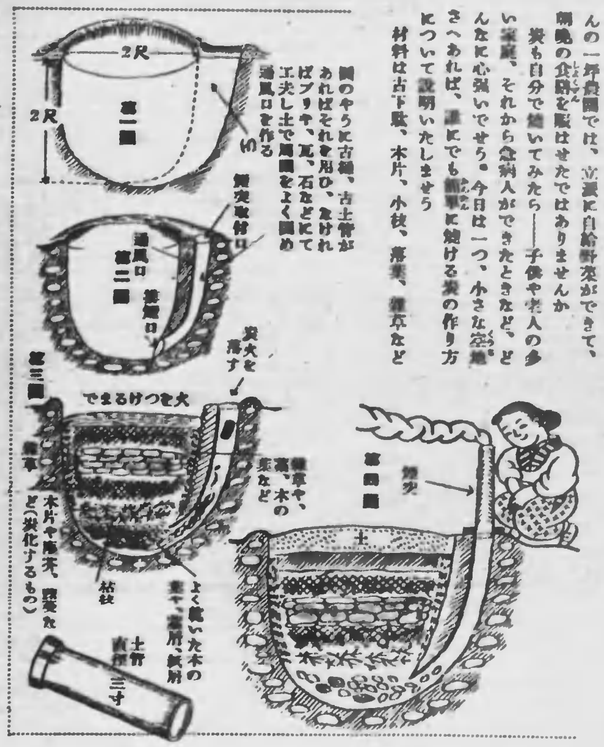
⇦内地の皆さん、頑張りませう。憎い米英を撃ちませう。で、一緒に戰ひませう

決戰冬だの
自分で炭も燒く努力

戰爭のために、いろんなものが不足するわけも分つたし、我慢しなければならないことも知つてゐるし、いろ〳〵工夫して上手に使ふことも覺えました。でもたゞ我慢したり、節約したりするだけではなく、一歩進んで、自分で作れるものなら作らうではありませんか。現に皆さんの一坪農園では、立派に自給野菜ができて、朝晩の食卓を賑はせたではありませんか

炭も自分で焼いてみたら――子供や老人の多い家庭、それから傷病人ができたときなど、どんなに心強いでせう。今日は一つ、小さな窯焼さへあれば、誰にでも簡單に焼ける炭の作り方について説明いたしませう

材料は古下駄、木片、小枝、落葉、雑草など何でもよろしい、これをたゞ捨てしまふより、自家製の木炭や、たどんにして、足りないこの多の燃料を補ふことにしようではありませんかたゞ時節柄、防火の點だけは十分に注意していたゞきたいのは勿論です。まづ最初に――



窯の作り方

一、まづ最初に穴を掘ります。穴の大きさは貴程も深さも二尺程どの、上から下まで同じのもので、底の方は鍋底型に開くします

二、次ぎにこれに通風口をつけるために(イ)の部分のやうに、穴の横腹を掘り抜げ、第二圖のやうに、古瓦か古土管、或ひはブリキ、瓦、石などあり合せの材料で、上の崩れ落ちないやうに伏せこみます。通風口の大きさは、直徑三寸くらゐが適當です

三、それから窯の縁を地面より稍高く盛りあげ雨水などの入らぬやうにします

四、なほ土の崩れやすいところでは、窯の内側にぐるつと石か煉瓦などを積み重ね、その隙の見えぬやうに、粘り氣のある土を水でこねて打ちつけ、手でなで廻し平にしておきます。これで窯はできました。次ぎは

炭材の入れ方

――について申しませう。第三圖を見て下さい

一、窯の底には、よく乾いた火のつき易い木の葉や紙屑、藁屑などをふんわりと輕くつめ、その上に枯枝を並べます

二、次ぎに窯のまん中に、炭にする木片や、麻芥をつめ

三、周圍と上の方には、雑草や藁などをつめます。なほ木片のみを焼くときは、中程どに太いものを入れるやうにして下さい。それで準備は終りました。では

火のつけ方

――ですが、もう一度第三圖を見て下さい

一、指火の炭火をよく吹いて火氣を立て、通風口から投げ入れるか、或ひは拾つた紙に火をつけて落します

二、すると窯の中央部に煙が出てきます。暫くそのまゝにしておくと、鼻や眼を刺激する煙が勢ひよく出てきますから

三、そのとき第四圖のやうに通風口に煙突を立てます。もし煙突がなければ、煉瓦や石などを積み重ねても結構です

四、次ぎに第四圖のやうに窯の上部に土を被せて蓋代りにします

五、かうしてだいたい五時間ぐらゐ蒸せば炭になります。牧炭材は材料によつて異ひますが、だいたい炭材によつて異ひます。

炭材の作り方

長さ四十六センチ(一尺五寸)位に玉切りとし、太いものは割つて大抵同じ大きさにする

炭材の積込み方

(イ)第二圖のやうに製木の上に横に積重ねる。

炭材の積込み方

(イ)第二圖のやうに丸木を敷き煙突をつける。

(ロ)煙突は直徑十二センチ(四寸)、長さ九十センチ(三尺)位が適當

(ハ)第一圖のやうに丸木を敷き煙突をつける。

(ニ)煙口は常に風の方向に向けること

炭材の作り方

長さ四十六センチ(一尺五寸)位に玉切りとし、太いものは割つて大抵同じ大きさにする

炭材の積込み方

(イ)第二圖のやうに製木の上に横に積重ねる。

火の消し方

――ですが

一、炭材が焼けてくると、煙の上がるところ所に刷れて穴があきますから、そこを均らして麻芥や土を被せます

二、煙の出方が少くなつたら、濡れ莚か土砂を被せ

三、煙突を外して、通風口を煉瓦や板などで閉じ、五、六時間もそのまゝにしておくと、火は完全に消えます

かうしてできた木炭は、そのまゝ使つてもよし、また粉炭を集めてたどんに作ります

自家製炭農村向 伏燒法

場所の選び方 乾燥した平坦な場所がよい

窯の作り方

(イ)全長百三十五センチ(四尺五寸)、幅七十五センチ(二尺五寸)の長方形に地面をやゝ掘り下げ

(ロ)全長の三分の一の部分を深くしてよく踏みしめ

(ハ)第一圖のやうに丸木を敷き煙突をつける。煙突は直徑十二センチ(四寸)、長さ九十センチ(三尺)位が適當

(ニ)煙口は常に風の方向に向けること

炭材の作り方

長さ四十五センチ(一尺五寸)位に玉切りとし、太いものは割つて大抵同じ大きさにする

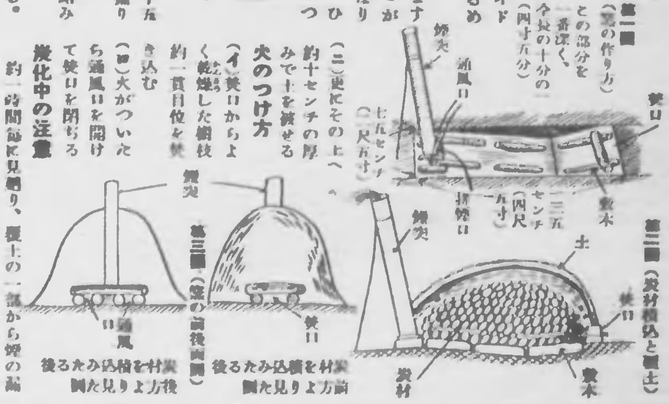
炭材の積込み方

(イ)第二圖のやうに製木の上に横に積重ねる。

高さは炭材の長さ位が適當

(ロ)横込が終つたら周側と上部に小枝(雑)で約十センチ(三寸位)の厚さに敷ひ

(ハ)その上に藁か古俵をかけ



(ニ)更にその上へ約十センチの厚みで土を被せる

火のつけ方

(イ)煙口からよく乾燥した細枝約一貫目位を焚き込む

(ロ)火がついたら通風口を開けて煙口を閉ぢる

炭化中の注意

約二時間毎に見廻り、覆土の一部から煙の漏れてゐるところがあつたら速かに塞ぐこと

消火と炭出し

(イ)窯の上部が一様に落ち、煙が青色になつて煙の下部が透明となつたとき

(ロ)煙突を外して煙出口と通風口を閉鎖し

(ハ)窯全體が冷えたところを見計らつて炭を出す

所要時間 およそ九時間

牧炭量 およそ一割五分

木炭焜爐の常識

できることなら、自家で炭を焼かうといふ決戰下です。生産者のご苦勞がこもつてゐる木炭はわだなく使ひたいものです。それにはまづ、焜爐の大きさや形によつて、適分炭の消費が違ひます

焜爐には粘土製や磁器土製などがありますが、磁器土製は、熱を傳導しなくて火がおこりやすいものです。しかし、火をよくおこすには焜爐の底が大事で、炭を入れる窪みが廣くて円錐型になつてゐるものが、通風もよく炭火も集中するので、火がよくおき、火力も強くなります。その半面、炭が早くもえてしまひますから、少しづゝ炭を足し、風口をたえず調節しなければなりません。これに反して淺く廣い窪みの焜爐は火のおこりが遲くても永持ちします

また窪みが大きすぎては炭を少しくらゐ入れても、焜爐の底で燃えるだけですから、鍋底が覆まりませんし、たくさん入れれば、火力が強くなりすぎ、炭もむだになります

一體に焜爐の大きいのは不經濟で、小さい焜爐ですと、時間がかゝつても、炭は少くてすみます。大きい焜爐は木炭が多くいりながら、鍋底に輻射熱があたらないので、折角の熱氣がわだになります

もし焜爐が大きすぎるなら、火入れの周りに粘土を築つて小さくします。または鉢木鉢の底がとれたものを入れて、焜爐との間に砂や粘土をつめるのもよいでせう。鍋をのせるところは、廣いほど、熱が鍋底によく當りますから、そのまゝに廣くしておきます

焜爐に入れる炭は、着炊を急ぐときは、栗の實か鶏卵くらゐの大きさに割つて使ふのがよく、編火で長く煮るには大きいまゝの方が永持もして得です。また炭火は、おこり始めの十五分ほどが一番高温になりますから、少し火がついたら早く鍋をかけて、つよい火を利用します

たどんの作り方

一、燃える材料に

(イ)自家木炭の小さたもの

(ロ)雑草や麻芥屑の炭化したもの

(ハ)配給木炭の粉

二、かためる材料

(イ)粘り氣ある土

(ロ)米のとぎ水

(ハ)うどんの茹で汁

(ニ)できればフノリ、ウノマタ、カーバイド粕などを少し加へ、水でとね、手でまるめてよく乾かせばよいのです

かうして自分で炭を焼き、たどんを作ります と、作る人々の勞苦も分つて、燃料の貴さが沁々と感ぜられ、自然に大切に使ふやうになります。また自分で作つた炭を火鉢にくべて、ひとときの煖をとるのも働いた後の樂しみの一つです

自家製炭農村向 伏燒法

木炭焜爐の常識

發光物質

夜の防空演習に、黄綠色の光るものをつけてゐる人を見かけたことはありませんか。また停車場などで目印が暗闇に光つてゐますね。あれは硫化亞鉛を基にして、どく僅かの銅やマンガンのやうな金屬を混ぜて造つた發光物質の粉を、セルロイドの液や樹脂の液で塗りつけたものですが、日光や電燈に十分當てゝから暗いところへ持つてゆくと、一時はつきり輝いて見えるのです

× ×

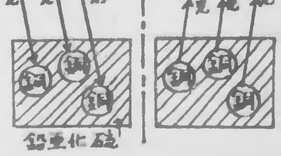
ではなぜ發光するのかといふと、まだ定つた說はありません。しかし、發光物質には、初めて與へられた熱や光やエックス線などのやうな熱量(エネルギー)を吸收する作用と、またそのエネルギーを光として放つ作用とがあります。光を放つ作用の中心を發光中心といひ、こゝにエネルギーが吸收されたときは、その刺戟のために變化が起きて不安定な狀態となりますが、元の安定した狀態へ戻らうとします。この戻らうとするとき に、發光といふ現象があらはれるといはれてゐます。前にいつた銅やマンガンはこの發光する中心に入つてゐるわけです

發光物質のうちには二つありますが、エネルギーで刺戟しても刺戟をやめると發光しなくなるものを螢光體といひ、刺戟をやめてもなほ發光してゐるものを燐光體といひます

さらにラヂウムのやうな放射線を出して發光する物質にエネルギーを與へ、これを刺戟する物質を入れておくと、たえず發光してゐるわけです。これが夜光塗料の基となる發光體です。つまり硫化亞鉛に銅をごく僅か混ぜたものに、ラヂウムやメソトリウムのやうな放射能物質を少し加へて造つた粉末を、鋼鐵の液で溶いて塗料にするのですが、これは氣壓計や軍艦、兵器の速度計、羅針盤など計器の夜光目盛になくてならぬものです

このやうに決戰兵器に大活躍してゐる發光物質も基をたゞせば日本人が作つたものです。音吉郎に日本人の畫家が描いた牛の絵がありましたがこの牛は不思議にも畫はぬけ出してしまひ、夜になると歸つて絵縁の中で眠ると傳へられてゐました。この畫家は牡蠣貝で發光物質を作つて絵具にしたので、畫は牛が見えず、夜になると光つてみえたのです

皆さん、日本人は昔からこんなに立派な科學者でした。昔の人に負けないやうに一生懸命に勉強して科學の力で敵を撃ちうでは ありませんか



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

寫眞週報（禁無斷轉載）
昭和十三年一月十一日 第二種郵便物認可
昭和十九年十一月八日發行 毎週一回水曜日發行
定價一部十錢（送料二錢）
編輯者 東京都新町區大手町 情報局
印刷者 東京都新町區大手町 印刷局
發行者 印刷局

復興之道

この國土

郷里へ歸省中の或る一日、私は舅と連れ立つて、忠靈塔のある町端れの丘の方へ散歩に出かけた。御林三十三間寺の寺域に出ると、私共は本道を外れて、杉本立の中の墓地に入つた。青苔におぼはれたピンヤリした上の上に、墓塔の人々の踏み固めた道が、杉の根瘤を縫ふて、墓石の間を縫ふて、性そ〳〵と續いてゐる。右手の方には、樹の間から、綠の水田に續どられた下町の遠景が望まれ、そと左けカッと明るく陽を浴びてゐるのが、幻燈でも觀いてゐるやうなはかない氣持を起させた

墓地には新らしい卒塔婆が多く目立つた。それは、人氣がなく靜かなだけに、いま日本の國が當面してゐる厳しい事態を、肇音無しに切々と物語つてゐるやうに思はれた

『ああ、くたびれた！〳〵……』

舅は何度も立ち止つて腰を伸ばすやうな仕草をした。私は或る微笑を抑へきれなかつた。といふのは、舅は一生涯働き通した人であり、いまでも鍬を振つて一日畠作りをしたり、七、八里の道を自轉車で吹つ飛ばして好きな鯉魚釣りに出かけるぐらゐの體力を持ち合せてゐるのだが、何の資格も關さない「散歩」のために少くときは、すぐにくたびれてしまふのが面白いと思つたからである

結が出かけに手巾に包んでくれた林檎を噛りながらやうやく墓地を抜けて、忠靈塔の廣場に出た。市民の勤勞奉仕による三年がかりの工事が資材や勞力の不足で、忠靈塔の外形が出來上つたばかりで、未だ完成してをらないが、ここの墓地から見晴す景色は素晴しいものだつた。西には晴れ渡つた青空の下に秀麗な岩木山が聳え、その山麓から流れ出す津輕平野が、豪壮の星下まで、豊かな黄金の波をヒタ〳〵と打つてひろがり、正面に見える市街の外廓をおし包んでゐる。銀色の河が帶のやうにくねつてその間を流れてゐた。眼の下の水田では、赤い襟がけをした百姓の後姿が五、六人働いてをり、鳳の工合で、ときゞ〳〵若々しい笑聲が、耳を襲ふほどすぐ近くに聞えて來た

切株に腰を下し、額の汗を拭ひながら、遠近の景色を眺めてゐた舅は、ふと獨言のやうに呟いた

『山は晴れで……稻は稔つて……なんぼいい景色だねえ。とれだば戰さに負けられぜんぢや……』

間を置いて、私は自分の體内の血がかすかに沸き立つて來るのを覺えた

讀唱繪巻

横山隆一 35

御菩薩さま
南 義郎
『あい、まだ火は起きんのかい』
『よく火鉢をみてごらんなさい』
『ウーム、なるほど、ウム、とりやなか〳〵温かいわい』
父子壁身
寺尾よしたか
『お早う』
『や、お早う、いつもながら、お揃ひで御精が出ますな』
手榴弾
バリカン戰法
安本 榮一
『へへ、アメリカの野郎め。つけあがつて、盡とやつて來たなあ、なあに、ビタともするもんぢやねえ。傳統の大和魂で、かうつと、叩きつけて、とん畜生ッ』
『痛いッ——君、もう少し靜かにやれんかね』
困つた小父さん
榎本 映一
『坊や、その藁どこで貰つてるね』
『買つたんぢやないよ、供出の藁鞋ぴを手傳つてんだよ』

わかつた！これだ！

皆さんの創意、工夫、知識を動員してこの欄を打開して下さい

【問題】『まあ、お嬢さまつたら、こんな大きな火消壺をお使ひになつてゐらつしやるんですか。これではなかなか火が消えませんでせう。それに炭は火消壺で消すより、水をかけて消した方が、すぐに消えてお得ですわ』

『あら、さうですかしら。でも先日、家事のとき、どちらが傷かつて實驗してみたんですよ、さうしたら』

（答へは次號に）

【前號解答】ガスの漏穴を調べるには石鹸液をつけてみるのが一番です。目にみえない程の小さな孔から漏れてゐるときでも、泡になつてふくらみますから、よくわかります。孔は絆創膏か或ひは丈夫な紙きれを貼つて塞ぎます

⇧ 白衣の兵隊をねぎらふ學童運動會

長野縣戸倉國民學校では、このほど東京から疎開してきた學童もお仲間にして、楽しい秋の校庭運動會を開きました。運動會には、近くの上山田温泉療養所から白衣の勇士をお招きしたのですが、勇士たちも、ヨイコたちの元気な敢闘ぶりに、しばし傷痍の身を忘れて大喜びでした

情報局委囑昭和十九年度國民映畫脚本募集

應募規定

題材年代隨意。未發表のシナリオ形式のものに限る

枚數 四百字原稿用紙百五十枚以内。冒頭に梗概三枚を附すること

締切 昭和十九年十二月三十一日

送先 東京都京橋區築地四丁目十四番地東京劇場内 社團法人大日本映畫協會 封筒に『國民映畫脚本』と朱書すること

賞金 情報局總裁賞 一篇金二千円
情報局賞 三篇各金一千円
並びに副賞 大日本映畫協會賞

發表 昭和二十年三月上旬

その他 原稿の第一頁に現住所、職業、略歴、氏名（筆名のときは本名）を明記すること。原稿は返却しない。また、募集についての問合せには應じない

國民映畫

大映作品

かぜの神は吹く

弘安四年六月、海を蔽ひて元の大軍來る。所領を捨つて私闘を續けて來た追捕使忽那重義も、城主河野對馬守通有もとの國難に奮起を奮て、相携へ博多へ馳せ向つた。舉國一致敵敵撃滅に蹶起したが、元軍の勢ひは衰へず血闘は相次いだ。閏七月朔日、俄かに空は亂れ不氣味な風が凄しく唸つた。天地も揺ぶる神風だ。しかも將兵は戰つた。一夜の中に大船團は沈み、殘餘の漂ふ波間に朝日が爽かな光を投げかけてゐた……

この映畫は元寇の役に取材して、本土を死守した先人の精神を顯彰せしめ、一億に神州護持の決意を新たにせしめるものとして、國民の必見に値ひする

本誌を壁新聞や掲示板に
國寶や前線慰問にも
「本誌を讀まれた後は、壁新聞や掲示板などで回覽するばかりでなく表紙や見開きの寫眞を戰場や校庭の掲示板などに貼り付け、「寫眞週報」として是非活用して下さい。戰時版の見ひもこゝにあります。また前線慰問にも送つてあげて下さい

申込所 全國各地官報週報普及部 書店、驛賣店、新聞販賣店

海軍關係の複寫複製は海軍省承認濟第五一四一號です

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/